

2021年5月20日

東京海上ホールディングス株式会社

新たな価値創出に向けた事業の開始 ～データ中核会社「東京海上ディーアール」始動～

東京海上ホールディングス株式会社(取締役社長 グループ CEO 小宮 暁、以下「当社」)は、安心・安全領域での新たな価値創出に向けて、今般、グループのデータ中核機能を担う「東京海上ディーアール株式会社(以下「Tokio dR」)」を活用した新たな事業を開始します。

1. 東京海上グループの目指す姿

昨今の AI・テクノロジーの進展や COVID-19 によるグローバル企業活動の変化、気候変動影響による自然災害の激甚化など、大きな社会変化・不確実性の高まりを受け、「リスク」は多様化・複雑化しています。また IoT センサー・e コマース等の普及に伴いデータ量・種類の増加や処理・解析技術が向上する中、「データの活用」が益々重要となっています。

こうした環境下、当社はデータを駆使することで、①新たなリスクや従来は困難であったリスクの引受け(補償提供)を実現すると共に、②今後伸長が見込まれる早期検知・予防領域での新技術・ソリューションを保険商品と一貫で提供することによって、社会課題の解決を図ってまいります。

また、社会インフラ機能を担う「保険」ならではの仕組みを活かして、③リスクの可視化や将来予測等に基づき、顧客・地域社会の行動変容を促すことで、より良い社会(事故がなくなる、健康になる等)の実現を目指し、お客様・地域社会の“いざ”というときを支えるため、“いつも”支えることができる存在へと挑戦してまいります。

この実現に向けて、今般、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社をベースとした「Tokio dR」を始動し、グループのデータ分析・ソリューション開発力強化を図ることにいたしました。

2. グループ全体で創出する新たな価値

当社グループでは、Tokio dR を通じて3つの新たな価値をご提供します。

(1)「データドリブン商品」のご提供

データドリブン商品とは、データを駆使・循環させることで、新たなリスクや従来は困難であったリスクの引受けを可能にする、早期検知・予防ソリューション機能を一体で提供するなど、お客様の“いざ”というときを支えるため、“いつも”支えることを目指した保険商品です。

<データドリブン商品の特徴>

- ・ 新たなリスクや、従来は引受けが困難であったリスクの引受け
- ・ 高度な動的データ分析、将来予測等に基づくプライシングの実施
- ・ データを駆使した新しいマーケットの創造 など

(2) 保険にとどまらないリスクソリューションのご提供

これまでスポット型が中心であったコンサルティング業務等を進化させ、データや IoT デバイスを活用したリスクの可視化や早期検知、事故予防に向けた行動変容等を促すリスクソリューションをご提供します。

＜リスクソリューションの特徴＞

- ・ 従来のスポット型(単発型)での提供に代えて、常時性・リアルタイム性を追求
- ・ リスク可視化、早期検知サービスの提供
- ・ 予防・再発防止などの行動変容に繋がるサービス など

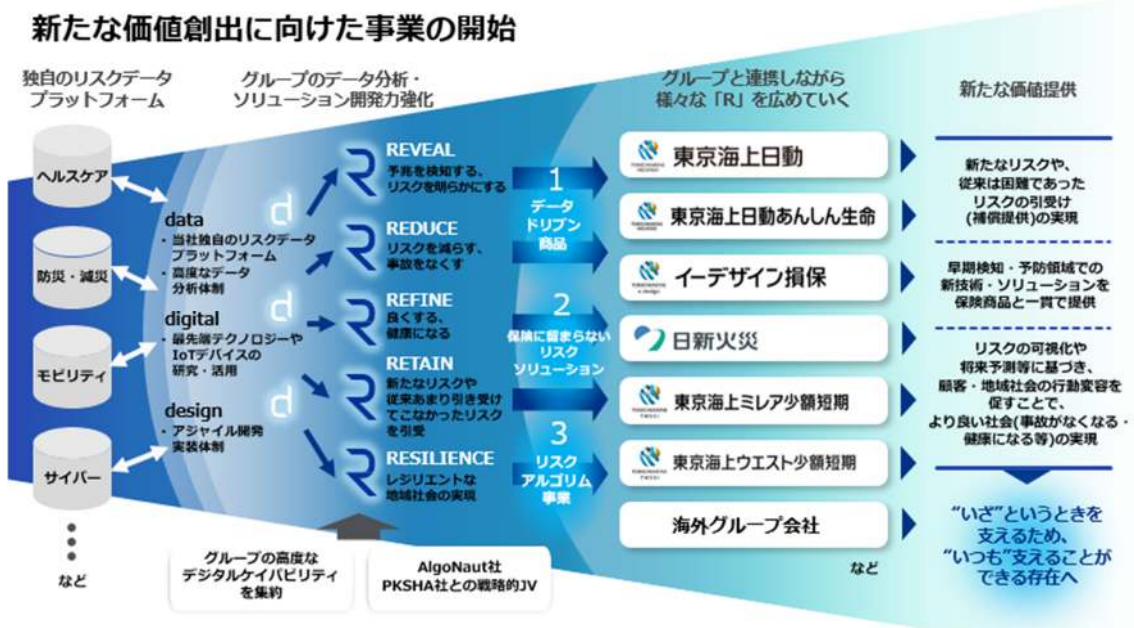
(3)「リスクアルゴリズム事業」の展開

当社が強みを持つリスク分野に特化し、アルゴリズムを活用したサービス開発・ライセンス提供を通じて、企業活動や日常生活におけるリスクの早期検知、リスクの発現/拡大防止を行います。

これらは株式会社 PKSHA Technology (20年4月資本業務提携)と設立した合併会社^{アルゴノート}AlgoNaut (20年11月設立)を通じて、ソフトウェアでのご提供に加え、既に企業が導入済のシステム・機器に組み込む形(モジュール)でもご提供します。

将来的には、上記取組みを通じて得た商品・ソリューション開発力やリスクマネジメントノウハウ等を、当社の強みであるグローバルネットワークを活用し、国内外の幅広い事業者に展開していきます。

＜Tokio dRを通じたグループとしての取組み全体像＞



3. 「Tokio dR」社およびグループデータ戦略の特徴

(1) グループの高度なデジタルケイパビリティを集約

新たな商品やリスクソリューションの企画・開発に向けて、グループの高度なデジタルケイパビリティを Tokio dR に集約し、グループ全体への供給を図っていきます。

リスク領域や保険商品に精通した人材に加え、イノベーション創出を図る企画型人材、アジャイル開発エンジニア、デザイナー、データサイエンティスト、高い専門性を持つ技術者などをグループ内で集めると共に、今後は外部人材の採用を加速させていきます。

(2) 当社独自の“リスクデータプラットフォーム”構築

事故データ等の当社グループが有するデータを一元化し、外部パートナーとのアライアンスを通じて収集したデータを掛け合わせ、ヘルスケア、防災・減災、モビリティ領域等での課題解決に資する当社独自の“リスクデータプラットフォーム”を構築します。

このプラットフォームでは、「①データ収集→②蓄積・管理→③解析→④精度向上→新発見&再発明」のデータ循環サイクルを通じた精度向上・モデル高度化等によって、新たな価値を創出していきます。



< 取組み例 >

ヘルスケア領域 : 株式会社ケアネットとの資本業務提携(20年11月)

防災・減災領域 : (国研)防災科学技術研究所との包括的連携協定(19年11月)

海洋・船舶領域 : アイディア株式会社との資本業務提携(20年4月)

建設・工事領域 : 株式会社ランドログが運営する「建設現場オープンプラットフォーム」でのソリューション開発(19年5月) など

(3) 高度なデータ分析体制の構築

当社のリスクマネジメントノウハウに加え、AI・機械学習に強みを持つ株式会社 PKSHA Technology の優れた自然言語処理や AI 画像解析等の技術を採用入れながら、グループとしての高度なデータ分析体制の構築を図っていきます。

また「リスク×アルゴリズム」によってリスク領域に特化したアルゴリズムを開発する AlgoNaut 社を通じて、新たなソリューションを開発していきます。

(4) アジャイルな開発実装体制

Tokio dR の始動にあわせ構築したアジャイル開発体制(グループ全体で 500 名規模)や、イノベーション創造拠点「G/D Lab」(21年4月/東京都中央区銀座)を活用し、顧客ニーズへの迅速な対応やソリューション開発等、更なる体制強化を行っていきます。

(5)最先端テクノロジーやIoT デバイスの研究・活用

業界初となる通信機能を有した2カメラ一体型ドライブレコーダーによる事故防止支援(21年4月・デンソーグループと開発)をはじめ、ヘルスケア、防災・減災、モビリティ領域等を中心として、グループとしての最先端テクノロジー・IoT デバイス研究、保険商品・リスクソリューションとの一体提供等を進めていきます。

4. 東京海上ディーアール社の概要 (<https://www.tokiorisk.co.jp/tokio-dr-teaser/>)

(1) 社名	東京海上ディーアール株式会社 (※) (現社名:東京海上日動リスクコンサルティング株式会社)
(2) 本社所在地	東京都千代田区大手町 1-5-1 大手町ファーストスクエア ウエストタワー 23階
(3) 代表者	取締役社長 嶋倉 泰造

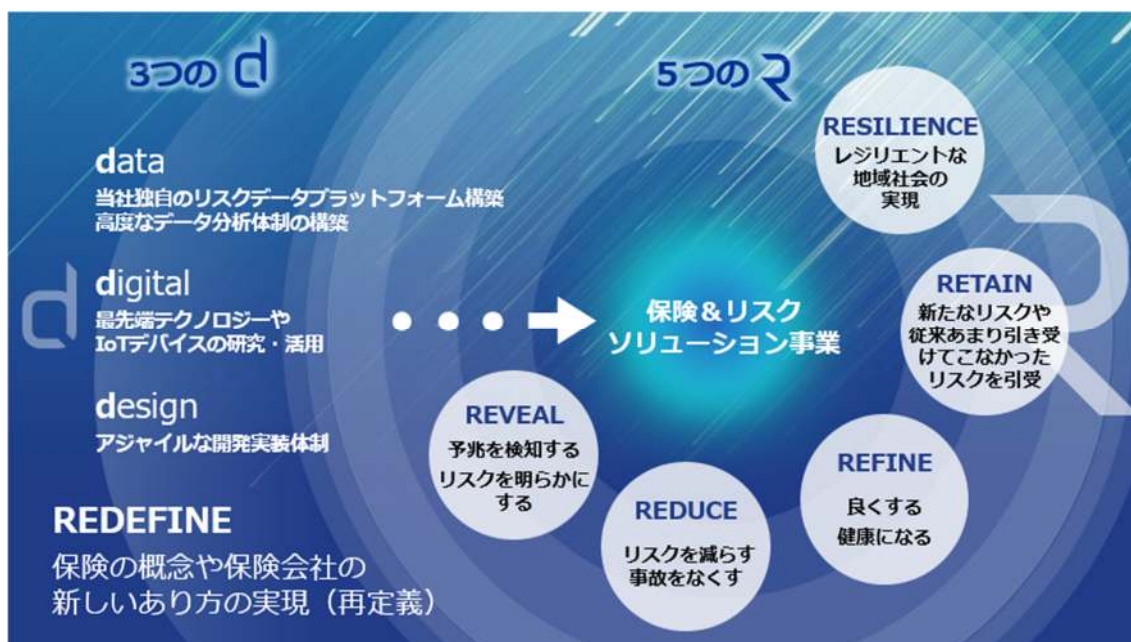
※ 21年7月1日付(予定)で商号変更を行います。なお現在行っている業務は21年7月以降も継続いたします。

以上

<ご参考>

社名の「ディーアール(dR)」には、手段としての「d」(data/digital/design)を活用し、様々な「R」(例:Resilience 等)を実現し、社会に新たな価値をお届けしていきたいとの想いを込めています。

また、未知なるリスクを見据え、Tokio dR の「R」には「未完」を表すデザインを採用し、当社が常に新しい「R」に対して挑戦し続けていくことを表現しています。



<5つのR ~事業・提供価値~>

Reveal	リスクの可視化や、事故や病気などが顕在化するタイミングを捉えた早期検知を通じて、事前の予防・対策を促すソリューション事業
Reduce	データに基づいた将来予測等を通じて、事故の防止やリスクの軽減を図る新たなロスプリベンション事業
Refine	IoT デバイス等からの取得データや各種サービスを通じて、健康状態の良化や施設設備の状態改善に向けた対策を行うソリューション事業
Retain	昨今の多様化・複雑化するリスクに対して、データを駆使・循環させることで、グループ各社での新たな保険商品開発・引受け等に資する事業。
Resilience	地方創生やサステナブルな社会の実現に向けて、人とデジタルの力で様々な社会課題解決を図っていく。